

平成15年度 公共事業再評価調書（土地改良総合整備事業）

（事業着手後 5年以上経過し継続中の事業、再評価後5年経過、社会情勢の急激な変化）

評価確定日	平成15年 月 日
所管部課名	農林水産部 農地整備課

地区名	事業の概要	1 必要性の観点			2 事業進捗の見込みの観点																																																	
		事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	事業の投資効果	[事業進捗の見込み]																																																	
<p>[地区名]</p> <p>おとばした音羽下</p> <p>[所在地]</p> <p>南秋田郡 昭和町</p>	<p>[事業の目的]</p> <p>土地利用型農業の確立を図るため、老朽化した用排水路・道路のほか暗渠排水・客土等を総合的に整備することにより、汎用農地を創設して土地利用の効率化により農家経営の安定向上に資するものである。</p> <p>[総合計画上の位置付け]</p> <p>「あきた21総合計画」では、国際化の急激な進展に対応しうる生産性の高い農業とこれを支える活力ある農村を確立するため生産基盤であるほ場の整備促進と用排水施設等の総合的な整備による農地の汎用化を図り新たな地域営農を展開する。</p>	<p>[事業の経緯]</p> <p>H10 事業採択 H11 工事着手 (H17 主要工事完了予定) (H18 完了予定)</p> <p>[進捗状況]</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>全体</th> <th>H15まで</th> <th>進捗率</th> </tr> <tr> <td>用排水路</td> <td>23,810m</td> <td>11,941m</td> <td>50.1%</td> </tr> <tr> <td>農道</td> <td>1,725m</td> <td></td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>暗渠排水</td> <td>6.0ha</td> <td></td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>客土</td> <td>54.0ha</td> <td>42.4ha</td> <td>78.5%</td> </tr> <tr> <td>区画整理</td> <td>56.2ha</td> <td>31.1ha</td> <td>55.3%</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>923</td> <td>524</td> <td>56.8%</td> </tr> </table> <p>[長期継続の理由]</p> <p>予算の制約に加え、客土材の確保に期間を要したことによる。</p>	区分	全体	H15まで	進捗率	用排水路	23,810m	11,941m	50.1%	農道	1,725m		0%	暗渠排水	6.0ha		0%	客土	54.0ha	42.4ha	78.5%	区画整理	56.2ha	31.1ha	55.3%	事業費	923	524	56.8%	<p>[社会経済情勢の変化]</p> <p>農産物の自由化や、米価の下落により農家の経営は厳しさを増しているなかにあつて、新たな米政策に盛り込まれている水田農業経営の安定と発展を図るためには、本事業による営農基盤の整備、農地の利用集積は重要なものと位置付けられている。</p> <p>①汎用化水田による田畑輪換（畑作物導入）農地を中心とした水田営農の確立。 ②労働時間の短縮、営農経費の節減による生産性の高い営農の促進。 ③担い手等への農地の利用集積を促進し安定した農業経営を図る。</p> <p>[地元の意向]</p> <p>平成12年4月に南秋田郡管内の5農協による合併がなされ、「JA秋田湖東」が発足し水稲のほか畑作物などの生産性向上と農業指導が強化された。 昭和町では、転作面積の拡大に伴い機械作業が容易な畑作物として「大豆」を選定し、汎用化されたほ場に集団転作を実施し生産コストの低減や複合経営の確立を図るため、事業の早期完成を強く望んでいる。</p> <p>[環境対策]</p> <p>「農業農村整備環境対策指針」に基づき保全すべき環境を確認のうえ事業推進している。</p>	<p>[整備効果]</p> <p>土地改良総合整備事業を契機として、汎用化したほ場で農業機械の大型化や共同化が図られ、低コスト化の促進が期待されている。 また、転作の拡大による大豆の集団化が実施され、機械化に伴う生産コストの低減や乾燥調整施設の活用により作付け拡大がさらに推進される。</p> <p>[費用の変化]</p> <p>労務費、資材費の低下に伴う減。 計画時事業費より1.8%の減。</p> <p>[効果の変化]</p> <p>作物単価の変更に伴う効果の減。</p> <p>[費用対効果]</p> <table border="1"> <tr> <td>計画時</td> <td>1.30</td> </tr> <tr> <td>再評価時</td> <td>1.28</td> </tr> <tr> <td>採択基準</td> <td>1.00</td> </tr> </table>	計画時	1.30	再評価時	1.28	採択基準	1.00	<p>[事業進捗の見込み]</p> <p>平成17年度までに主要工事を終え、平成18年度は補完工事を実施し完了する予定である。</p> <p>3 コスト縮減や代替案立案等の可能性の観点</p> <p>[コスト縮減の可能性]</p> <p>客土材を他官庁の工事現場からの発生土を活用し、本地区の隣接地ストックヤードへ運搬してもらったことにより運搬費の軽減となるなどコスト縮減に努めながら事業の進捗を図っている。</p> <p>[代替案立案の可能性]</p> <p>なし。</p>															
区分	全体	H15まで	進捗率																																																			
用排水路	23,810m	11,941m	50.1%																																																			
農道	1,725m		0%																																																			
暗渠排水	6.0ha		0%																																																			
客土	54.0ha	42.4ha	78.5%																																																			
区画整理	56.2ha	31.1ha	55.3%																																																			
事業費	923	524	56.8%																																																			
計画時	1.30																																																					
再評価時	1.28																																																					
採択基準	1.00																																																					
<p>[事業内容]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>諸元</th> <th>計画時</th> <th>再評価時</th> <th>増減</th> <th>理由等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業量</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>用排水路</td> <td>23,810m</td> <td>23,810m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>農道</td> <td>1,725m</td> <td>1,725m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>暗渠排水</td> <td>6.0ha</td> <td>6.0ha</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>客土</td> <td>46.0ha</td> <td>54.0ha</td> <td>8.0ha</td> <td>細密調査による面積増。</td> </tr> <tr> <td>区画整理</td> <td>56.2ha</td> <td>56.2ha</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費(百万円)</td> <td>940</td> <td>923</td> <td>△17</td> <td>労務費、資材費の低下に伴う減。</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>H10~H14</td> <td>H10~18H</td> <td>4年</td> <td>予算上の制約による。</td> </tr> <tr> <td>受益面積</td> <td>148.5ha</td> <td>148.5ha</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		諸元	計画時	再評価時	増減	理由等	事業量					用排水路	23,810m	23,810m			農道	1,725m	1,725m			暗渠排水	6.0ha	6.0ha			客土	46.0ha	54.0ha	8.0ha	細密調査による面積増。	区画整理	56.2ha	56.2ha			事業費(百万円)	940	923	△17	労務費、資材費の低下に伴う減。	工期	H10~H14	H10~18H	4年	予算上の制約による。	受益面積	148.5ha	148.5ha			<p>再評価の結果</p> <p>対応方針（案）及びその理由</p> <p>公共事業評価専門委員会の意見</p>		
諸元	計画時	再評価時	増減	理由等																																																		
事業量																																																						
用排水路	23,810m	23,810m																																																				
農道	1,725m	1,725m																																																				
暗渠排水	6.0ha	6.0ha																																																				
客土	46.0ha	54.0ha	8.0ha	細密調査による面積増。																																																		
区画整理	56.2ha	56.2ha																																																				
事業費(百万円)	940	923	△17	労務費、資材費の低下に伴う減。																																																		
工期	H10~H14	H10~18H	4年	予算上の制約による。																																																		
受益面積	148.5ha	148.5ha																																																				
<p>継続中止</p>		<p>[対応方針（案）]</p> <p>平成18年度は換地処分を実施し、完了を図る</p> <p>[理由]</p> <p>平成14年度までに完了した面（客土工含む）工事区域については、既に作付けが行われている。また、平成17年度までには面（客土工含む）工事を終え、その後、地元要望に応えるため、補完工事を実施することとしており、事業を進捗するうえで支障もなく、平成18年度に換地処分を実施し完了することが可能である。</p>																																																				